

障害者もおしゃれを楽しみたい

車椅子の生活になっても普通の服を着られると思いがちだが、座ると体の形状が変わるので窮屈だったり、下半身に感覚がないためシワや縫い目が床ずれにつながったりしやすい。そのため好みは問わず、着られる服を着ることが多い。障害を持つ人がおしゃれを楽しめる社会を目指して研究が続いている。

千葉県の中澤恵子さん(37)は25歳の時、スノーボードの事故で背骨を強く打ち、下半身が動かなくなつた。リハビリを始めるころ、以前はいていたジーパンが「太ったわけではないのにすくきつい」と感じた。中澤さんは文化服装学院

車椅子生活の女性 衣料開発を研究



昨年の国リハのファッションショーで、前を短くするなど工夫した服で登場した中澤恵子さん。文化服装学院提供

◆車椅子の方向けの服◆

ピロレーシング 事故で手足が不自由になった自動車レーサーの長屋宏和さんが設立したブランド。お尻の布を1枚にして負担を少なくしたデニムやウエディングドレス、レインコートなど。アトリエロングハウス ☎03・6276・1418。

北海道トンポ オーダーメイドのフォーマルスーツ、上半身に障害があっても着やすいように脇にファスナーを付けたシャツ、かかとを面ファスナーにして履きやすくした靴など。☎011・742・2540。

エンゼルキッズウェア 幼稚園から中学生を対象に介護服に見えないカジュアルな色遣いやデザインの服。種類も多く大人の愛用者も。パンツはおむつ着用者に配慮している。東京エンゼル本社 ☎0120・167・177。

(東京都渋谷区)でデザインを学んだ。きつい理由を考えると、座るとお尻の下の皮膚が伸びるので、背中側が生地が足りないため、めくれば落ち、内臓が下がっておなか回りが太くなっている▽感覚のない足が生地を押しさえてしまう———ことが思

い当たった。スカートも同じ。後ろの生地が足りないため、めくれば落ち、内臓が下がっておなか回りが太くなっている▽感覚のない足が生地を押しさえてしまう———ことが思

【種真理子】

者会で調査し、メーカーの障害者用衣料の開発に携わる。

埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセン

ター(国リハ)では昨年から、車椅子の障害者を中心にしたファッションショーが開かれている。文化服装学院の文化・服装形態機能研究所が計測して服を作る。ポトムの対応だけでなく、着崩れないようにス

ツのジャケットを短くしたり、手が不自由な場合は上着に面ファスナーなどを付けたりして工夫する。主任研究員の高見澤ふみさんは「障害に合わせた一人一人に細かい配慮が必要だと感じた」と話す。国リハ研究所障害工学研究部長の小野栄一さんは「ショーで登場する。おしゃれ講座や展示もある。無料。問い合わせは国リハ ☎04・2995・3100。